

1. 事業名：「中東情勢/実務セミナー」
2. 場 所：ホテルグランドアーク半蔵門
3. 実施日：平成 27 年 10 月 28 日（水） 14：30 ～ 16：10 講演（質疑応答含む）
16：15 ～ 17：15 懇談会

4. 演 題：「中東地域の最新治安情勢とリスクマネジメント」

5. 講 師：国際政治アナリスト 菅原 出 氏

6. プログラム：開会挨拶

講演（70分）

質疑応答（20分）

懇親会

7. 講演骨子：

今回のセミナーは、米国を中心とする外交、中東の安全保障やテロリズム、治安リスク分析や危機管理が専門の菅原出氏に「中東地域の最新治安情勢とリスクマネジメント」と題してご講演いただいた。

第一部は、「最新の中東情勢」として、中東地域に存在感を高めているロシアのシリア軍事介入について、その背景、ロシアとイランの軍事作戦の実態、ロシアの参戦が近隣諸国に与える影響と話題を展開し、こうした状況下でISの脅威はどうなっているかについても触れた。近隣諸国は特にイラク、トルコ、イラン、サウジアラビアを取り上げ最近の治安情勢に触れた。

第二部は、「海外進出企業のリスクマネジメント」について、情報収集分析、リスク評価から対策までご高話いただいた。各国の社会情勢を知った上でリスクマネジメントを行うことが基本であること。つまり、何もないところで突然テロや暴動は起きない、背後となる社会情勢をよむことが鍵であると話された。まずは、脅威情報を収取・評価、リスクの絞り込み、安全対策オプションの検討を経て対策実施となる。

安全対策の実施の際に検討される、セキュリティ会社の選定については単に安いだけでは問題であると指摘があった。重要なのは、ソフト面、つまり情報・監視カメラのモニタリング体制、緊急時のレポーティング体制、警備員の練度、車両の維持管理、通信体制にあると強調された。たとえば、警備員の練度については軍人出身の警備員は民間に比べてコストは低い、もともと武器の使用基準が民間警備員のそれと異なっているため、すぐに武器を使用してしまう傾向があると例を挙げた。

講演後の質疑応答では、“国の政策に対する反動の脅威のとらえ方について”を問われると、まずは政治分析が欠かせないとアドバイスされた。政治が強硬化すると潜在化していたリスクが顕在化してくる。不満をだれが持っている、どの程度のレベルに高まってきているか、が実際にテロ活動として現れる予兆、リスクの重要な情報にもなると説明された。

<成 果>

講演後に実施したアンケートの結果、参加者の皆様より高い評価を頂いた。講演について、「中東の情勢を、ロシアを含む国際的な関係を含めて理解することが出来、テロ等の危険の脅威の背景を理解できた。」「リスクマネジメントに関するご高説は非常に具体的で自社の安全施策をあらためて見直すなど活用させて頂きたいと思います。」「メディアや外務省では伝わってこない情報を聞いて大変有益でした。」など有益であったとの感想が多く寄せられた。

今後のセミナーのテーマ設定については、中東産油国の財政実態と経済活動（国際協力を含む）に対する影響、引き続き、流動的な中東情勢の最新情報等ご要望を頂いた。今後のテーマ設定の参考としたい。

